



ハリーン通信

Vol. 33



〔目次〕

- P1 表紙・フードドライブ 「フードドライブ in 北播磨」写真
- P2 県、市町の取組 「フードドライブ in 北播磨」北播磨県民局、各市町
- P3 環境学習の取組 第2回「遊ぼう！ぼうけんの森」北播磨青少年本部、やしろの森公園協会
- P4 環境イベント 「東条川疏水の日 活動発表会」東条川疏水ネットワーク博物館会議
- P5 環境学習 「水生生物調査」加東市立東条学園小中学校
「里山まつり」西脇市立芳田小学校
- P6 寄稿 「オグルマの避難移植」加西ナチュラリストクラブ会長 尾内良三氏
- 市町の取組 「エコ（ECO）しましろうポスター展」加東市
- P7 高等学校の取組 「ドキュメンタリー映画自主上映」県立三木高等学校国際総合科環境班2年
- 不法投棄防止地区の活動紹介 多可町中区中安田地区
- P8 市町の取組 「環境美化街頭啓発活動」西脇市
「脱炭素先行地域」に選定 加西市
- 環境課からのお知らせ ハリーン通信がインターネットで見られます



フードドライブ in 北播磨

～「もったいない」を「ありがとう」に～



フードドライブとは、家庭で余っている食品を無駄にせず、支援を必要とする家庭に配布または福祉団体へ寄附したりする活動です。北播磨県民局では、「兵庫県庁SDGsWEEK」に併せて、管内の市町と協力して、令和4年9～10月の数日間、各地で「フードドライブ in 北播磨」を開催しました。家庭で余っている食品を募り、合計で約2.3トンの寄附物品が集まりました。



兵庫県庁SDGsWEEK

フードドライブ in 北播磨
～「もったいない」を「ありがとう」に～

フードドライブとは？ 家庭で余っている食品を持ち寄り、必要としている生活困窮者や福祉施設に配付する活動

ご家庭でお使いにならない食品・日用品がありましたらお持ちください。ご協力の程よろしくお願ひします。

期 間 令和4年10月26日(水)～27日(木)
受付時間 10:00～15:00
場 所 社協会合1階263号室 27日(木) 加西市社協1075-2

対象食品
○賞味期限の表示がある食品
○賞味期限が1ヶ月以上あるもの
○賞味期限が1週間以内のもの
○賞味期限が1週間以内のもの
○賞味期限が1週間以内のもの
○賞味期限が1週間以内のもの
○賞味期限が1週間以内のもの
○賞味期限が1週間以内のもの

対象日用品
○トイレットペーパー、ティッシュペーパー、生活必需品、洗濯洗剤、台所用洗剤、歯ブラシなど日用品

寄に寄る食品
●米
●乾麺（パスタ、そうめんなど）
●カップ麺
●レトルト食品
●缶詰（おかず）
●野菜、果物

兵庫県庁SDGsWEEK 北播磨県民局
ひょうごフードドライブ推進ネットワーク フードバンク加西
（連絡先：0795-42-5296（北播磨県民局市民交流室環境課））

兵庫県北播磨県民局では、令和4年10月26日～27日の2日間、実施しました。時期的に稲刈りが終わった頃ということもあり、新米や古米が多く寄せられました。また、県立社高等学校の生徒達も「困っている人達の助けに少しでもなりたい」という思いからお菓子などを寄附してくれました。

フードドライブの発祥はアメリカと言われ、生活困窮者を支援するチャリティとしてスタートしましたが、近年では食品ロス（本来食べられるにも関わらず捨てられている食品）を減らす意味でも注目されています。農林水産省の発表によると、日本全体の2020年度の食品ロスの量は、522万トで、そのうちの約半分に当たる247万トは家庭から排出されています。フードドライブの広がりによって、個人が気軽に食品を寄附できる仕組みが整ってきました。こうした取組は限られた資源を有効活用できる上に、寄附をきっかけに支援を必要とする家庭と福祉団体がつながり、社会的な接点を維持できることにも大きな意義があります。



集まった物品の重量は、北播磨県民局で507キロ、西脇市433キロ、加西市986キロ、多可町407キロ、加東市は食品299点でした。物品は、NPO法人フードバンクはりまや各市町の社会福祉協議会などを通じて配られました。

ご協力ありがとうございました。



第2回 遊ぼう！ぼうけんの森



令和4年10月2日（日）、秋晴れのもと、自然豊かな県立やしろの森公園において、第2回「遊ぼう！ぼうけんの森」が開催されました。

このイベントは北播磨地域の小学生が、兵庫教育大学のボランティア学生やこころ豊かな人づくり 500 人委員北播磨 OB 会の方達と共に、県立やしろの森公園でぼうけんをしながら、いろいろなミッションに挑戦していくというウォークラリーです。

今回は「わんぱく！！ふれあい隊 自然旅に行くの巻」というテーマで、1グループを学年や地域、性別が異なる1年から6年生までの5、6人で編成、みんなで力を合わせてポイントをクリアしていきます。

楽しみにしている子ども達のために、昨年度より参加者数の上限を倍にした結果、当日は96名の参加がありました。

いざ、ウォークラリーに出発！！



グループ毎に出発



井戸水をくみ上げよう



二十日大根を収穫しよう



自衛隊員をさがせ



ザリガニを捕ろう



バルーンアートを作ろう



合間にクイズも



カモとふれ合おう



ほふく前進に挑戦



本部長の激励



小学校4年生の女子は「自然に触れてとても楽しかった。井戸水のくみ上げは初めての体験でとてもおもしろかった」。また、保護者は「ここ最近、コロナで子ども達が思い切り走り回るようなイベントがなかったので良い機会と思って」と参加申込みの理由を話していました。

学年や性別が異なる子ども達の元気いっぱいの歓声が、自然豊かな公園に久しぶりに響き渡った一日。子ども達にとっては遊びや普段できない体験を通して、自然の営みやチームワークの重要性を学び、豊かな人間性を育む絶好の機会となりました。



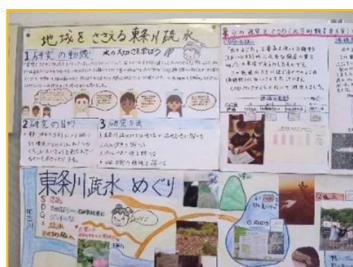


“東条川疏水の日” 活動発表会

11月23日は、1951年（昭和26年）に鴨川ダム（東条湖）が完成した日で、“東条川疏水の日”と定めています。この日に合わせて、小野市うるおい交流館 エクラホールにおいて東条川疏水に関わる人や組織、団体などが相互につながり、情報や活動状況を定期的に共有する活動発表会が開催されました。



* 疏水（そすい）とは他の水源から水を引く目的で造られた水路のことで、琵琶湖疏水などが有名です



活動発表では「先人たちからの贈り物～東条川疏水の実践を通してこどもたちに伝えたいこと～」というテーマで、加東市立福田小学校の小倉教諭が4年生の社会科授業（地域学習）の様子を紹介。普段当たり前のように見ている自分たちの地域の風景について、その地形の特徴（ため池多い・水田多い）の調査を始め、水路のしくみや効能を考え、実際に自分たちでミニチュア池も造った

ことを報告。温暖な瀬戸内気候のため雨が少なく、加古川よりも高い位置にある水田に重機のない時代に水を引き、「少しでも人の暮らしを良くしたい」という先人たちの熱い思い、当たり前の風景が実は先人の苦労や強い思いで成り立っていることを子ども達は学んでいきます。また、福田小4年生の3名が「加東市ノーベル大賞」を受賞したことも紹介されました。



第2部では「疏水で育まれた地域食材を活用した取組」と題して、県立社高等学校生活科学科食ビジネス班3年生が発表。ダムやため池の学習を通して、その水や地形、気候がもたらした「奇跡」として地元名産の山田錦を再認識し、その米粉等を使用した山田錦パウンド、酒粕スノーボールを創作。地元の財産「東条川疏水」に感謝しつつ、自分たちの出来ることとして後輩や地域の人達にその恵みを伝え、地元を盛り上げていくことを宣言しました。

今回は教育の観点からの発表が中心で、まさに「次世代を育む」「未来を創っていく」ためのこれからを考える取組発表会でした。認識から体験、そして実践へとつながる取組みで社会を変えていく、地域の財産である水の恵みを、100年、1,000年先の未来に向けて活かしていくことへの大きな期待が膨らんだ会となりました。



水生生物調査

加東市立東条学園小中学校



令和4年9月13日、加東市立東条学園小中学校小学3年生47名が、加古川で水生生物調査を実施しました。この調査は、国土交通省の環境学習指導事業として10年以上に渡って実施されています。子ども達は足をすべらさないように気をつけながら、班毎に川の中へ入り、石を裏返し底に付



いている生物を確認します。さらに網で石の周りをすくい上げ、バケツに入れていきました。ほとんどがタニガワカゲロウやオオシマトビケラのような小さい生物ですが、大きなモクズガニを見つけたときには、みんな大歓声をあげていました。



川から上がって、捕ってきた生物の種類毎に分類整理をし、各班で発表。「水生生物から水質を探る」という学習に移行し、きれいな水にいる生物（ナミウズムシ）や、ややきれいな水にいる生物（オオシマトビケラ）が多く、汚い水に生息する生物はいなかったことから、この調査地点では「ややきれいな水」という結果が出ました。



参加した子ども達の「もっとやりたかった」「最初は触れなかったけど、触れるようになってよかった」などの感想のなか、川の中のごみを見つけ、「次からはごみ拾いしよう」と発言する児童もあり、環境美化への意識も育ちつつあることを実感しました。

里山まつり

西脇市立芳田小学校



前号で西脇市立芳田小学校の3年生15名が、総合学習の一環として、近くの里山で落ちている木々を拾って基地を作る取組を紹介しました。今回はその続編で、令和4年12月13日に、「里山まつり」と称して近くのこども園の園児25名や1、2年生18名を招待し、どんぐりや落ち葉等を使った自分たちで考えたゲームでみんなを喜ばせました。

園児らは、「楽しかった。手作りの景品がもらえてうれしかった」。またホスト役の3年生は「春からみんなで力を合わせてきて、今日はみんなが喜んでくれて良かった」と満足した様子でした。



20年近くこの取組を指導しているグリーンサポーターの笹倉 渉さんは「1、2年生では先生に言われたことをやろうとしてきたが、これを機会に自分たちで考え、行動するようになる。自信を持つようになります」と3年生の成長ぶりに目を細めていました。

オグルマの避難移植

～希少種保護のための一提案～



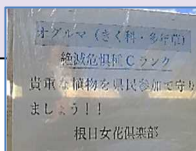
加西ナチュラリストクラブ

会長 尾内 良三

オグルマ（きく科・多年草 県レッドデータ Cランク）の自生地は、加西市の産業団地予定地内にあり、1～2年以内に整地されることから、隣接する主要地方道の多可北条線沿いの花壇（植え込み）に令和4年11月5日、約35株を移植しました。花壇は「根日女（ねひめ）花俱樂部」が管理しています。同倶楽部の会員の小西女史を介して、花壇への移植をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。

さて、絶滅危惧種を沿道に植栽することには賛否があると思いますが、従来、特に希少種については盗掘等の恐れから、生息場所を公表せず秘密裏に保護されることが多く見られました。これらの状況下で「貴重な生物を守りましょう」と啓発しても、ほとんどのの人にとっては、「見たこともないものを守りようがない」と思われてしまう一面があります。そこで、盗掘され難い種・増殖が容易な種・鑑賞に耐える種などは多くの方に見ていただき、守ることへの認識を深めていただく機会を試みました。

当日の参加者は、北条高校「人間創造コース」生徒、根日女花俱樂部、加西市環境課、加西ナチュラリストクラブのメンバー等総勢26名でした。皆さん、お疲れ様でした。



市町の取り組み

加東市

エコ(ECO)しましょうポスター展



令和4年10月20日～26日、加東市のやしろショッピングパーク Bio2 階の多目的ホールにて、環境を考え、身近なことから取り組む活動をしている加東エコ隊による「エコ(ECO)しましょうポスター展」が



開催され、市内各小学校からの力作が展示されていました。未来を託す次世代にとって「環境」について考えるきっかけとなる大変有意義な機会となりました。



夏、皆さんも挑戦してみてはいかがでしょうか。

また、「グリーンカーテン2022 in かつどうフォトコンテスト」も同時開催されました。ツル性の植物で建物の窓や外壁を覆うことで直射日光を遮り、見た目にも涼しく、植物によっては収穫も楽しめるグリーンカーテンにこの



高等学校の取り組み

兵庫県立三木高等学校 国際総合科環境班2年 ～ドキュメンタリー映画自主上映～



令和4年11月20日、プラごみ問題の現状や取組を調査してきた三木高校国際総合科2年「環境班」のメンバー4人が、三木市立市民活動センターで、プラスチックごみ問題について考える自主映画会を開催しました。「みきボランティアフェスタ2022」の開催に合わせ、三木のファンクラブであるNPO法人 This is MIKI 等の協力を得て、実施となりました。



映画は、ニューヨークの小学校5年生たちが環境汚染に向き合い、行動する2年を追ったドキュメンタリー作品「マイクロプラスチック・ストーリー～ぼくらが作る2050年～」で、浜辺のゴミ拾いから始まり、学校生活のプラスチック製品を改めて見直し、プラスチックゼロランチ日を設定し成功させます。さらに市議会や市長にも働きかけ、市をあげてプラスチックゼロへの取組運動を展開していくという、次世代の熱い思いと飛躍を感じさせる作品です。



映画終了後、生徒たちは環境に関するプレゼンテーションも実施しました。企画した生徒は「想像以上の大きな問題であると認識してほしい」という思いを語り、参加者からは「自分にできることを考えさせられた」、「このような自主映画会を企画する高校生たちの姿に、新しい学びの力を感じる」等の感想が寄せられました。

不法投棄を許さない取り組み



不法投棄防止地区の活動紹介～多可町中区中安田地区～



多可郡多可町中区中安田地区は、北は山に面し、三方は西脇市に隣接しながら広く開けている、のどかな田園地帯です。しかしここ最近、山沿いや近くを流れる杉原川沿いの竹藪に、不法投棄が多く見られるようになりました。

区長は令和4年9月に行われた不法投棄防止活動研修会に参加し、不法投棄防止のための資材としてセンサーライト、ゴミよけトリー、ネットを準備しました。取り付け場所は両サイドが竹藪で死角となっており、近年、生コン等の不法投棄が増加しているところです。



取材当日は9名の役員たちで、50mに渡ってネットの取り付けやゴミよけトリーの設置を行いました。区長は「今後は、竹藪は兵庫県の竹林整備事業を活用することで死角をなくしていき、村を挙げて不法投棄防止活動に努力していきたい」と語っています。



市町の取り組み



西脇市

環境美化街頭啓発活動



令和4年10月15日、西脇市保健衛生委員会と西脇市は、環境に配慮した消費行動やライフスタイルの啓発に取り組む団体と連携し、環境美化街頭啓発を市内の大型スーパー等6店舗で実施しました。



西脇市消費者協会、市民エコ会議、くらしの安全・安心推進員、エコネットにしわきからの総勢24名の参加者が、3名から5名のグループに分かれ、買い物客に、①マイバッグ持参による買い物 ②ごみの分別と資源化への協力 ③詰め替え用品の利用 ④生ごみの水切りによるごみの減量等の声掛けを実施しました。



10年以上続いている活動で、参加者からは「少しでも環境のためになるなら、小さなことから意識を持って実行していくことが大事」、「市民目線の声掛けをすることに意義がある」等の声が聞かれ、さらに環境美化に向けての地道な取組が期待されます。



脱炭素先行地域



加西市



「脱炭素先行地域」に選定

環境省は、政府目標に先駆けて2030年度までに脱炭素化に取り組む「先行地域」の第2弾として、加西市など17道府県20件を追加選定しました。加西市は、同市に関西本社を構えるトヨタとパナソニックの合併会社「プライムプラネットエナジー&ソリューションズ」(東京)と連携し、車載用バッテリーの定置型蓄電池への転用技術などを導入し、エネルギーの地産地消を進めていきます。



ハリー通信がインターネットで見られます



平成17年の創刊号から、最新の33号までのハリー通信をインターネットで見ることができます。ぜひ、ご利用ください。「北播磨県民いきいき情報」を入力し、検索してください。また、右のQRコードからいつでも見ることができます。

兵庫県北播磨県民局 県民交流室 環境課

電話0795-42-5111 (内線341)

FAX0795-42-7535

